

時に宰領を付てやれよかしと、脇より申ければ、其儀に及ばず、何者に成共持せ遣はせ、日本にさへ有れば能と、信綱公下知し玉ひ、終に一品も紛失なき故、後日に何れも其度量のひろさを感じしとなり。

〔鶴の毛衣二十二〕保科正之卿言行記○中

一一日蚤將登營府而命守庭者曰、到寅則當報之、守庭者誤鐘聲以丑爲寅而報焉。公○松平則睡起、及著衣裳而待晨久、然夜未明、夜者甚恐之、而以其誤焉。公曰、何傷哉、假令可誤先于時、不愈後于時乎、他日以之勿怠焉。

〔續近世叢語雅量四〕盤珪禪師嘗落魄於美濃關山、邑人憫其貧窶、資給住團標、莊頭是時失囊金十兩、乃疑盤珪、視之稍衰、居歲餘、往女婿家知所嘗亡金、女有急偷取也、即召見盤珪、具語其故、懺悔陳謝、盤珪夷然乃言、大好大好、然非我所預焉、夫疑與見疑、本來無有、皆生於憶爾。

〔武野燭談十六〕板倉重矩折弓之事、酒井遠江守名劔試る事、

一板倉内膳正重矩、唐半弓を求て秘藏あり、其製誠に龜工の及所にあらず、矢の飛事、大弓にひとしく、床に置いて用心にぞ構られける、然に内膳正留守に、近習の小坊主不圖引張過して、たちまちに引折けり、主人秘藏の弓とい、只事には有間敷と、小坊主をば押込置、歸宅に及で、此半弓の折たる事を申ければ、内膳一段機嫌よく、其坊主早々ゆるせ、武士たらん者武藝に志すは、はまれたる事ぞかし、其小坊主弓に心引るゝは、秘藏なる事ぞ、又弓は強く引て用に立べきものを、肝要のとき折たらんには、日頃秘藏の專嗜み置たる甲斐なし、今坊主が引折たるは、内膳が爲に吉事ぞと被申ける。○下略

〔假名世説〕仁齋先生存在の時、大高清助といふ人、適從錄を著して大に先生を誹謔す、門人彼書を持ち来て示し、且これが辨駁を作らん事を勧む、先生微笑してことばなし、かの門人怒りつぶや